

認知症BPSD対応研修

BPSD出現時の適切な対応を考えよう

事例1 暴言・暴力

【この教材のねらい】

今回配信する教材は、認知症ケア場面の事例を使い、さまざまな視点からBPSD(行動・心理症状)への対応について理解を深めていくものである。

事例の限られた情報から、どのような原因が考えられるか、どのような対応方法が考えられるかを共有し、今後の認知症ケアのヒントとして活用していただきたい。

研修の進め方①

まずは次の事例を読み上げます。

【事例1】

Aさん、70代、男性、デイサービス利用。
前頭側頭型認知症

妻と二人暮らし。認知症発症前は比較的穏やかな性格であったが、徐々に介護する妻への暴言や暴力が増え、夫婦喧嘩が絶えない状況となっていた。デイサービス利用時も他利用者とはトラブルになることが多い。

【事例1（続き）】

ある日、同じテーブルで他の利用者数名とにこやかに話していたのだが、Aさんが突然一人で怒り出し、他の利用者に暴言を吐きながらテーブル上の容器をひっくり返すなどの行動があり、職員が慌てて静止しようとしたところ、職員を叩くなどの暴力も見られた。「暴力はいけませんよ！ どうしてこんな事するんですか！？」と問い詰めたが、Aさんはますます怒りが激しくなってしまった。

研修の進め方②

グループになり、BPSDの原因として考えられる項目を話し合います。出てきた項目をワークシートに記入して、グループ毎にいくつか発表します。

参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

ワーク1

Aさんの暴言暴力の原因を探りましょう

認知症が及ぼす影響（中核症状）や
心理面・身体面・環境面の影響など、
原因として考えられることをあげてみましょう

研修の進め方③

次の質問を参加者に投げかけ、ワークシートに記入してもらいます。

- ① 事例の職員の対応についてどう思うか
- ② どのような対応が適切だと思うか

ワーク2

この事例の職員の対応はどう感じますか？
問題と思う点をあげてください。

ワーク3

あなたならどう対応しますか？
適切な対応方法を考えてみましょう。

研修の進め方④

- ① 記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。人数が多い場合は数人を指名して発表してもらいます。
- ② ワークシートを回収して、全員の考え方を整理し、フィードバックして、研修は終了です。

【この教材を終えるにあたって】

この研修には「正解」はありません。認知症ケアは、その人がどういう性格か、これまでどのような生活を送ってきたのか、何を望んでいるのか、などによって対応が異なるためです。

様々な対応方法を共有することで、その人に合った適切な対応ができるように「認知症ケアの引き出し」を増やしていきましょう。

お疲れ様でした。